

# 脱炭素 私ができること

上諏訪小児童が  
カードゲーム 20年後シミュレーション



ゼロカーボンに関するシミュレーションゲームに挑戦する上諏訪小の整美委員たち

諏訪市上諏訪小学校の児童  
量を実質ゼロにすること）を  
会後期整美委員会は、ゼロカ  
テーマに活動している。7日  
ーボン（温室効果ガスの排出  
は整美委員の4〜6年生20人

が、環境に配慮した取り組みを進めながら20年後の未来をシミュレーションするカードゲームを体験。ゼロカーボンの必要性や具体的な取り組みを知り、未来に向けて自分たちができることを考えた。

市は2022年3月にゼロカーボンシティ宣言を行い、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを推進している。児童たちは10月に初回の活動を実施し、ゼロカーボンに関する基礎知識を学習。諏訪湖の御神渡りへの影響や、世界各地で起きる気象災害との関連について理解を深めた。

この日体験したのは、カードゲーム「2050カーボンニュートラル」。児童は政府、電力会社、農林業など12種類の組織に分かれ、それぞれ環境に配慮した取り組みが書かれた8枚のカードの中から4枚を選択。排出量や資金に関する組織ごとに定められたゴールを目指しながら、「ガン

リン車への増税」「断熱住宅の設計」などの経済活動と、「節電」「ごみの分別」といった市民活動を進めた。

公認ファシリテーターの茅野貴之さんが講師を務め、ゲームの進行とともに脱炭素を巡る世界の状況を説明。児童たちが選択した活動内容によって排出量や森林、資金量などが変化していく様子を伝え、「市民と組織、どちらの働きも必要」「小さな取り組みでも、多くの人が同じ取り組みをすることで大きな成果になる」と呼び掛けた。

食品メーカーとしてゴールを達成した4年の小平花さん（10）は「排出量を減らせるような取り組みを選んだ。ゼロカーボンのことがよく分かった」と話していた。

同校では同委員会が中心となり、今年度中に学校全体でゼロカーボンに向けた取り組みを実践する予定という。

（松本佳林）